取付注意

取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付け をおこなってください。

● ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への 危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大 きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定 される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する 重要な内容ですので、必ず守ってください。

/!\警 告:人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。 || 注 意:人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が 想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

○ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁

止)が描かれています。 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるもので す。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラ グをコンセントから抜いてください) が描かれています。

たり修理・改造をしないこと

● 交流 100V 以外で

取付注意

は使用しないこと

● 修理技術者以外の人は、絶対に分解し 分解・修理・ 発火・感電したり、異常動作してけがをする 取付注意 改造禁止 おそれがあります

100V 使用禁止 火災・感電の原因にな ります ● レンジフードの壁への埋め込みは しないこと 埋込禁止 漏電した場合、発火するおそれがあります

> ● 排気工事をされる場合は、建築基準 法(同施行令)および消防法などの 関連法規に従って法的有資格者が工 事をおこなうこと 火災などの原因になります

従って法的有資格者が工事をおこなうこと 誤った配線工事は感電や火災の原因になります ● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または 金属板張りの木造の造営物に金属製ダクト が貫通する場合、金属製ダクトとメタルラ 取付注意

用して可燃物を覆うこと

火災などの原因になります

▲ 警告

● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に

ス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触 しないよう取り付けること 漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります ● レンジフードと排気ダクト等は、可燃物と の間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使

詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください ● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを 設けること 取付注意 火災・故障の原因になります

● レンジフードは、薄板の金属部(壁 内ラス網など)と接触しないよう 取り付けること 取付注意

漏電した場合、発火するおそれがあります ● アースを確実に取り付けること 4 故障や漏電のときに感電するおそれがあ

ります

アースを

取り付ける

自然排気型のストーブを使用する ときは、空気の取入口(給気口) により十分給気される配慮をする 取付注意

排気ガスが室内 に逆流し、一酸 化炭素中毒を起 こすおそれがあ ります

アースの取り付けは販売店にご相談くだ

注意

取付注意

● 浴室など湿気の多い場所では絶対に 使わないこと(浴室用換気扇をお使 いください) 使用禁止

感電および故障の原因になります ● 周囲温度が 40℃以上になるところ には取り付けないこと 取付禁止

火災・故障の原因になります ● 運転中は、指や物を 絶対に入れないこと 取付注意 けがをするおそれがあり

落下によりけがをす るおそれがあります ● 部品の取り付け は確実におこな うこと 落下によりけがをす ❤️

● レンジフードの取

なうこと

り付けは、十分強

度のあるところを

選んで確実におこ

るおそれがあります

● 作業は2人以上で おこなうこと

すること 鋼板の切り口や角で 取扱注意 けがをするおそれが

レンジフードは約 30kg の重さがあります

取り付け上のお願い

- 下記は「建設工事」に区分され、関連 する法令、規定に従って法的有資格者 がおこなう必要があります。 ・大工工事【設置のための下地工事等】
- セント・コネクター利用以外の配線 ・管工事【ダクト配管およびレンジフー ドからのダクト接続等】

・配線工事【コンセントの設置、コン

- 流通業者(販売店)を通して組立・設 置する場合は、「建設工事」とそれ以外 の「組立・設置」を区別しておこなっ
- てください。 ● ダクトの不燃処理について
- ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、 または 20mm 以上の国土交通大臣 不燃認定品の不燃材料で被覆してく ださい。 ・施工要領は、各メーカーの「標準施

工要領技術指導書」・「検査要領書」

● 調理機器の幅はレンジフードの幅以内 のものをご使用ください。 調理機器はレンジフードの前面より手 前にはみ出して設置しないでください。 捕集性能が低下します。

に従ってください。

- 屋外壁面の排気出口に取り付け るベントキャップまたはパイプ フードの通気抵抗は 400m³/h 時 50Pa 以下のものをご使用く ださい。 防虫網付きのものは目詰まりし て排気性能が低下する場合があ
- 非常に長いダクトや細いダクト。 あるいは極端に屈曲したダクト は排気性能をいちじるしく低下 させたり、騒音が大きくなりま すので使用しないでください。
- ダクトは必ず屋外側に向けて下 り勾配を設けてください(目安 勾配 1/100 ~ 1/50 程度)。雨 水の浸入や結露水の逆流の原因 になります。 ● レンジフードは調理機器の真」
- に取り付けてください。なお、 レンジフード取付高さは、レン ジフードの下端 が調理機器の真 上 80cm 以上に なるようにして
- レンジフード取付面の補強部に 取付用座付ねじが確実に届くこと を確認してください。 長さのものが同梱されております が、壁下地に石膏ボード等が貼ら れている場合は、石膏ボード等の
- りますので使用しないでくださ 厚さを確認し、取付用座付ねじが 確実に補強部に届くことを確認し てください。 また、レンジフード本体取付面に は必ず不燃材を使用してください。 ● レンジフード下部には、湯沸器を絶 対に取り付けないでください。 また、横方向
 - て取り付けてく ださい。湯沸器 🎝 🕆 50cm 以上 の真上は高熱になるため故障の原 因になります。 ● 製品仕様を改造してのご使用は絶 対におやめください。

50cm 以上離し

● 部屋の中央で調理される場合は油 煙が捕集しきれませんので、お台 所の全体換気のために、他の換気 扇と併用していただければ、より すぐれた換気ができます。

- 建物が密閉されている場合は必 ず、約 400cm² 程度の空気取入 口を設けてください。
- 本体の取付用座付ねじは 45mm の 寒い地域ではダクトが結露しレ ンジフード内に結露水が流れる 場合がありますので断熱材を巻 くなどの対応をしてください。

● レンジフードの

- 配線工事の際は、 壁スイッチを使 用しないでくだ レンジフードへの通電が遮断さ れますと、お手入れ時期の表示 (お手入れランプ) を正しくお知
- らせできなくなります。 ● 汚れを除去する際は、シンナー 等の有機溶剤を使用しないでく 塗装面が変色したり、はがれたり
- することがあります。 ● 風量おまかせ運転 (風量自動切 替)機能を正しくお使いいただ くために、別紙に記載の方法で 必ず環境設定をおこなってくだ

⚠ 警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造 をしないこと 発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります 分解・修理・
- 改造禁止 ● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
- 漏電した場合、発火するおそれがあります 埋込禁止 ● 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)お

火災・故障の原因になります

- よび消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工 事をおこなうこと 火災などの原因になります ● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
- 取付注意 ● レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆う こと 取付注意 火災などの原因になります
- レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラス網など)と 接触しないよう取り付けること 漏電した場合、発火するおそれがあります 取付注意

詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください

⚠ 注 意

取り付け前の調査と準備

接触禁止

手袋をする

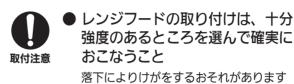
ます

あります

■ 取り扱いの際は、

必ず厚手の手袋を

- 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付け ないこと 火災・故障の原因になります 取付禁止
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手 袋をすること 手袋をする 鋼板の切り□や角でけがをするおそれが



■ 取付面の強度確認 製品を支える強さが必要です。

あります

■板張りの場合(取付面は必ず不燃処理をおこなってください) ●板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強

製品質量

30kg

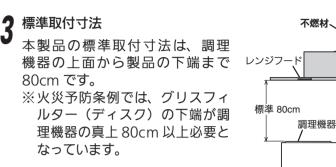
板にレンジフードを取り付けてください。 ● 板厚が 20mm 以上の場合は補強板の必要はありません。

■コンクリート、タイル壁の場合 ●あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等

を使用し固定してください。

■土壁の場合

- ●柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込ん でください。
- 1 別売部品の準備
- 排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。



電源コンセント・ブレーカー

電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置して ください。(交流・単相 100V) コンセントは、JIS C 8303 2 極接地極付差込接続器 15A 125V をご使用ください。

本体取付栈 1個

ダクトカバー 1個

本体の取り付けに使います。

ダクト取付部をカバーします。

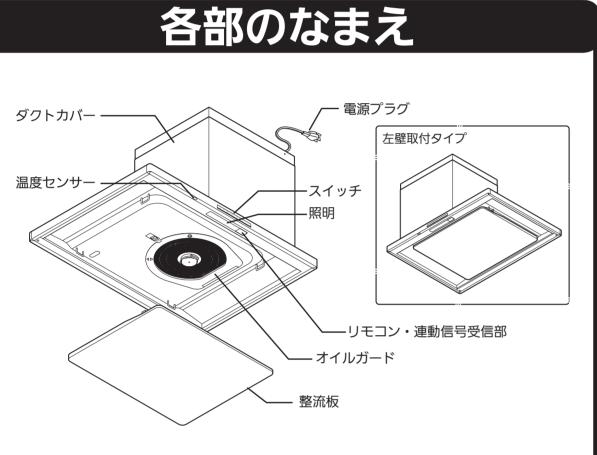
(単位:mm)

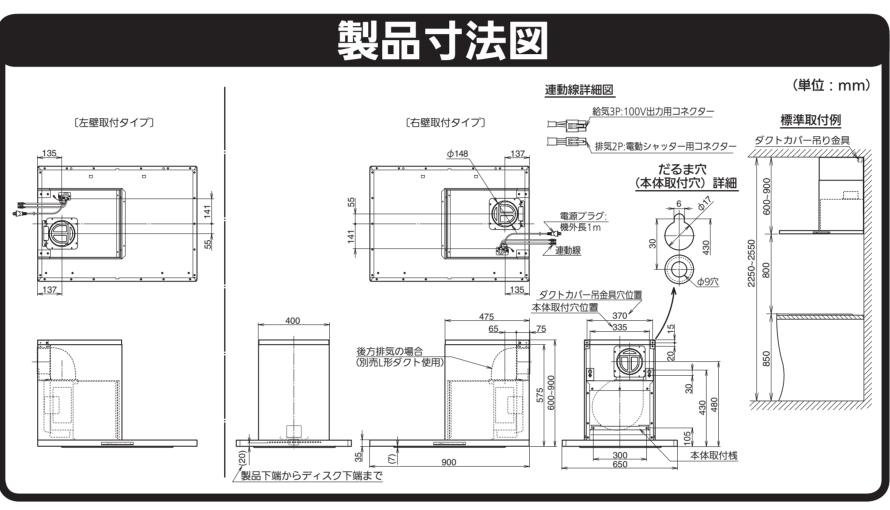
(単位:mm)

お願い

必ずアース工事(D 種設置工事)をしてください。 レンジフードが誤作動することがあります。

ください。





排気口、L形ダクト

(別売品)

座付ねじ(φ5.1×45)10本 (3) 本体、本体取付桟およびダクトカバー 吊り金具の取り付けに使います。 化粧ねじ (M4×8) 2本 ダクトカバー内側スライド部の固定 に使います。

トラスねじ (M4×10) 2本 ダクトカバーの取り付けに使います。

ソフトテープ 1本

排気口とダクトとのすきまをふさぐ

逆風防止シャッター付きです。

のに使います。 排気口 1個 本体とダクトの接続に使います。

ダクトカバー吊り金具 2個 ダクトカバーの取り付けに使います。

1. 付属品の確認

● 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること 鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります 手袋をする

付属品を確認します。 梱包箱から付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不 図1-1

足がないか確認します。 お願い • 保護用のクッション材と固定テープはキズ、破損防止の

ため、「8. 固定テープの取りはずし」まではずさないで

ください。(図 1 - 1) 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、 必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してく ださい。



2. 排気方向の決定

⚠ 警告

- 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの 関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
- 取付注意 火災などの原因になります ● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に 金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、 金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること 漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、 不燃材料を使用して可燃物を覆うこと 取付注意 火災などの原因になります

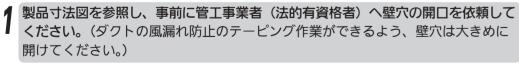
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください ⚠ 注 意



● 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと (浴室用換気扇をお使いください) 感電および故障の原因になります



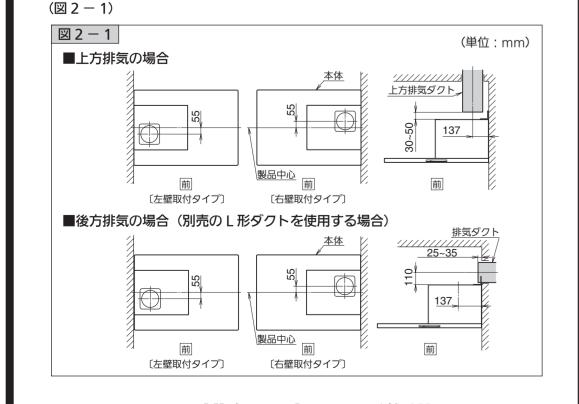
● 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと 火災・故障の原因になります



ください。(ダクトの風漏れ防止のテーピング作業ができるよう、壁穴は大きめに

▲ すようにセットして、周囲を仕上げてください。(コンクリート、タイル、土壁の場合)

また、コンセントの位置を確認してください。(「6. 電気配線」図6-1参照)

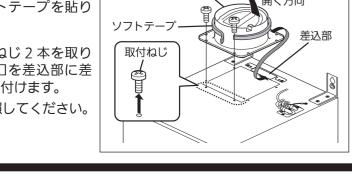


3. 排気用部品の準備

図3-1

※「1. 付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意してください。

- 上方排気の場合(図3-1) 1) 排気口に付属品のソフトテープを貼り
- 付けます。
 - 2) 製品に付いている取付ねじ2本を取り はずし、付属品の排気口を差込部に差 し込み、取付ねじで取り付けます。 ※取付方向は右図を参照してください。



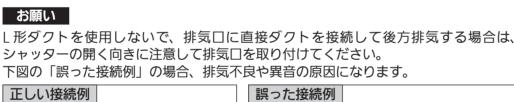
シャッターの

取り付けかた ■ 後方排気の場合(別売品のL形ダクトを使用する場合)(図3-2) 排気口に付属品のソフトテープを貼り、L形ダク 図3-2

トに取り付けます。 取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、 取付ねじ レンジフードを運転していないときはシャッター が閉じるように取り付けます。 排気口は、L形ダクトに付属している取付ねじ(M4 ×8) 4本でL形ダクトに取り付けてください。

※ 本体への取り付けは、製品の取り付け後にお

こないます。(「5. ダクトと排気用部品の接続」







(挟み込む部材は不燃性

キッチンパネル~

不燃材

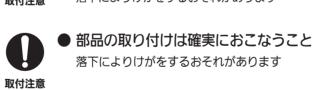
のものを使用すること

シャッターの開く方向

4. 本体の取り付け

注意

● レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところ を選んで確実におこなうこと 落下によりけがをするおそれがあります 取付注意



3 本体を引っ掛けます。(図 4 - 2)

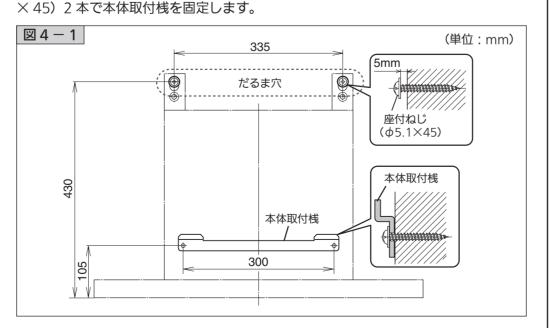
落下によりけがをするおそれがあります お願い

・レンジフードの前後および左右方向の水平を確実にだし

てください。水平に設置されていないと、本体内部の汚

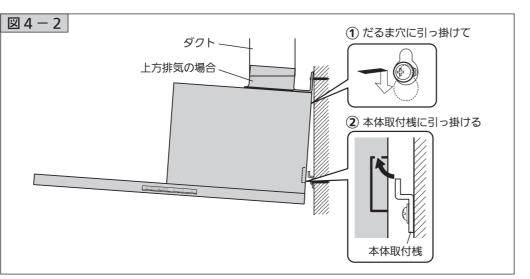
れ(油)が各部のすきまから調理面に滴下することがあ ります。 ・キッチンパネルの上端部をレンジフード下部壁面に入れ 込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟 み込む部材は不燃性のものを使用してください。可燃物 を使用した場合、火災の原因になるおそれがあります。

¶ だるま穴用座付ねじをねじ込みます。(図 4 − 1) 製品寸法図と裏面の型紙を参照し、だるま穴位置(左右各1ヶ所)に付属品の座付 ねじ (φ 5.1 × 45) を壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。 本体取付桟を取り付けます。(図4-1) ■ 製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付桟の取付位置に付属品の座付ねじ (φ 5.1



引っ掛けます(**2**)。 お願い 上方排気の場合はダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

本体のだるま穴を座付ねじに引っ掛けながら(1))、本体背面の溝を本体取付桟に



4 本体を固定します。(図 4 − 3) 1) だるま穴下の φ 9 穴 (左右各 1 ヶ所)

2) だるま穴の座付ねじ(φ 5.1 × 45) をしっかりと締め付けます((2))。

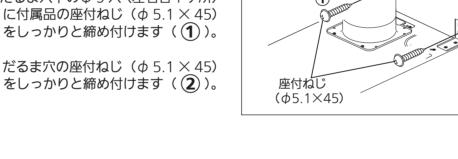


図4-3

5. ダクトと排気用部品の接続

お願い

ドリリングタッピンねじなどで排気口 を固定する場合は、シャッターにねじ があたらないように、図のドリリング タッピンねじ使用範囲内に固定してく ださい。(図5-1)

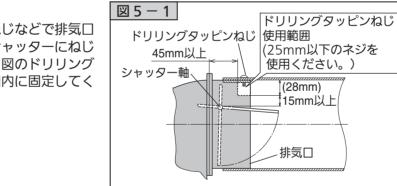
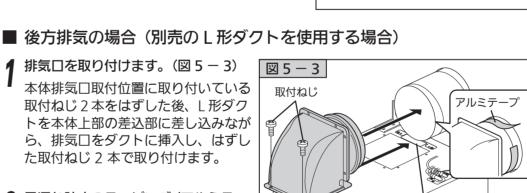


図5-2

アルミテープ

■ 上方排気の場合

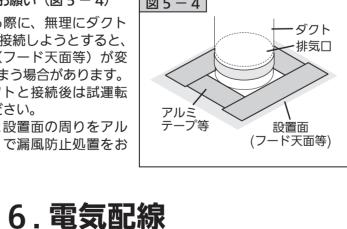
ダクトと排気口の接続部に風漏れ防止のテーピ ング(アルミテープ)をおこないます。 (図5-2)



L形ダクト

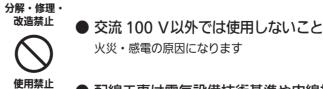
¶ 風漏れ防止のテーピング(アルミテー) ▲ プ)をおこないます。(図5-3) ■ 排気口設置面の漏風確認のお願い(図5-4)

排気口とダクトを接続する際に、無理にダクト にレンジフードの排気口を接続しようとすると、 排気口と排気口の設置面(フード天面等)が変 形し、風漏れが発生してしまう場合があります。 風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転 (強運転)をおこなってください。 漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアル ミテープ等(現場調達品)で漏風防止処置をお こなってください。



⚠ 警告

● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと 発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります



取付注意

● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って 法的有資格者が工事をおこなうこと 誤った配線工事は感電や火災の原因になります

● アースを確実に取り付けること

故障や漏電のときに感電するおそれがあります アースの取り付けは販売店にご相談ください アースを 取り付ける

お願い ・ 電源は専用のコンセント(2極接地極付差込接続器 図6-1 15 A、125V) およびブレーカーを設けてください。

・ コンセントは電源コードの長さを考慮し、右図の斜線 範囲内に設置してください(図6-1)。

・「9. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでくだ

分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。 (単位:mm)

7. ダクトカバーの取り付け

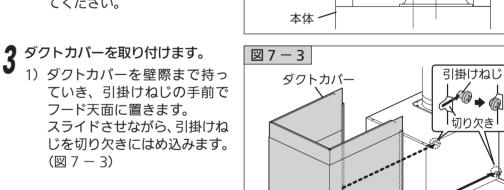
図7-1

取付位置を確認します。 (図7-1) 製品寸法図を参照し、ダクトカ バー吊り金具の取付位置を確認し ます。

7 ダクトカバー吊り金具を取り付け ▲ ます。(図7-2) ダクトカバー吊り金具を図のよ

うに付属品の座付ねじ(φ 5.1 × 45) 4本で取り付けます。 ※ レンジフードのセンターに合 わせて注意しながら取り付け てください。

(図7-3)



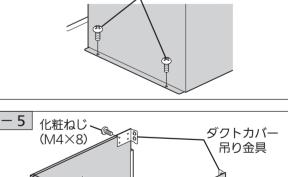
ダクトカバーづ火

吊り金具

座付ねじ

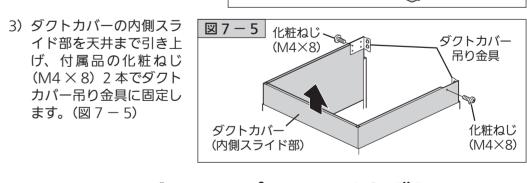
 $(\phi 5.1 \times 45)$

2) ダクトカバー前側を付属品の トラスねじ (M4×10) 2本 で本体に固定します。 (図7-4)



トラスねじ(M4×10)

イド部を天井まで引き上 げ、付属品の化粧ねじ (M4×8) 2本でダクト カバー吊り金具に固定し ます。(図7-5)



8. 固定テープの取りはずし

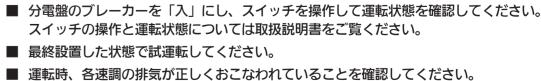
付属の取扱説明書を参照して整流板を取りはずし、オイルガードを固定しているテープを はがします。 ※ 固定テープをはずした後は、はずした部品をもとどおりに取り付けてください。

9. 試運転

⚠ 注 意

● 運転中は、指や物を絶対に入れないこと けがをするおそれがあります 接触禁止

ますので十分確認してください。



■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。

■ 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。 ■ 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となり

■ 自動運転機能を正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をお こなってください。 10. お客様への説明

■ 製品保護のため、はずした保護用のクッション材をもとの状態に取り付けてください。

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

本社・営業部 〒 252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 番 9 号 TEL 042(768)3754(営業部)

必ずアース工事(D種接地工事)をしてください。 [製造元] 一FUJIOH- 富士工業株式会社

原寸大型紙(Tiki单位ld mm)

お願い

この型紙は湿気の影響で2~3mm 誤差が生ずることがあります。

